

親子で学ぶ 子ども大学

○もめてゐる国は
二つの国に割

○代表が集まる
会議を作る

○同盟をイ

○オ三国公向に入る

○世界を考えた似た
グループに分ける

○地球を一つの国に

○一つの国の内は
どこでもい

○二国間は国際連合の
ものにする



子ども大学かわごえ

これまでの活動は、多方面で評価されています。



埼玉県NPO大賞 優秀賞 (平成23年)

評価…NPO団体の活動活性化を促す



博報財団 博報賞 (平成24年)

評価…児童教育現場の活性化を支援



地域づくり総務大臣表彰 (平成24年)

評価…豊かで活力ある地域社会の構築



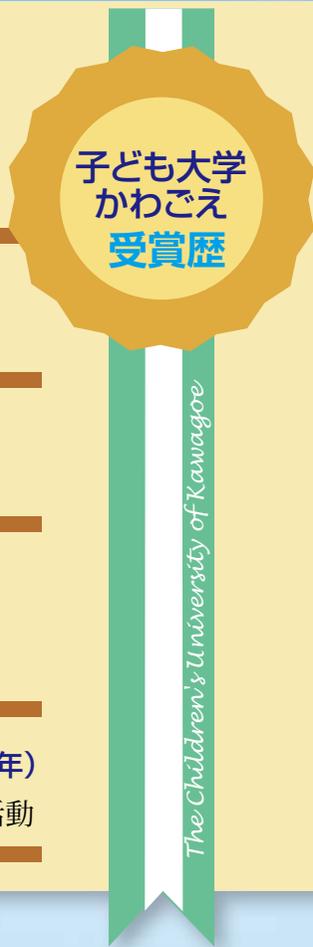
**公益財団法人ソロプチミスト日本財団
「社会ボランティア賞」 (平成25年)**

評価…地域の小学4年生から6年生を対象に、
大学レベルの授業を行う



あしたのまち・くらしづくり活動賞 (平成25年)

評価…あしたのまちやくらしづくりに関する積極的な活動



「子ども大学ってなに？」

**「子ども大学なのに、
親子で学んでどうということ？」**

表紙を見て、そう思われたのではないのでしょうか。

「子ども大学」は、

知的好奇心が発達する10歳前後の子どもたちに、
大学教授が大学レベルの内容をやさしく教える場です。
ドイツで始まり、急速に普及しました。

このドイツの「子ども大学」を参考に、
平成20年、埼玉県川越市に

日本で初めて設立されたのが **「子ども大学かわごえ」** です。

子どもにも分かりやすい言葉で、大学レベルの専門的で楽しい授業が展開され、
地域の多くの子どもたちに豊かな影響を与えています。

その一方で、親も一緒に授業を聴講し、帰宅後、親子で話し合う――。

「子ども大学かわごえ」では、

“二重の親子の学び合い”が自然に行われています。

「そんな学び合いをもっと広めていきたい」

それが、NPO法人・子ども大学かわごえの新たな目標です。



親子で学ぶ子ども大学

もくじ

「親と子が学び合う それは講義をする者たちの熱い期待」

遠藤克弥学長からのメッセージ

「量から質への転換——教育の質をさらに深めるため 親子共学と生涯学習に取り組む」

酒井一郎理事長からのメッセージ

…… 4

徹底解剖！子ども大学かわごえ

…… 6

8年間の実績

…… 10

卒業生・保護者からのメッセージ

…… 14



初めて聴くお話にときどき



わくわく 好奇心が高まる

「親と子が学び合う」

それは講義をする者たちの熱い期待でもあります」

遠藤克弥学長からのメッセージ



遠藤学長（左）と酒井理事長

私たちの社会に学校制度が確立して以来、抱いてしまった「子どもは難しいことは学べない」という発達段階主義的な固定観念。「子ども大学かわごえ」は、この固定観念を壊そうという思いも込め、設立されました。その分野を極めた一流の知識人たちが、小学生を相手に講義を始めることになったのです。

相手が小学生だからと言って、決してレベルを落とすことのない講義には、その分野を極めるために歩んできた学者、技術者やビジ

ネスマンの努力の人生や学びへの思いが、さまざまなところに込められています。

つまり、知識だけでなく、それぞれの講師の学びのメッセージが込められ、発信されているのです。だからこそ、子ども大学の小学生たちは、高いレベルの授業が理解できるのだと思います。

また、もう一つ期待していた学びの展開がありました。親には付き添いで来ていただくことにしていますが、親たちも授業を聞いて

学び、その学びが家庭にまで発展し、帰ってから子ども大学で学んだことについて親子が話し合うという、二重の親と子の学び合いが実現しました。

時には親が子どもに質問をしたり、それを起点に新たな学びが始まったり、親と子が共

量から質への転換

「教育の質をさらに深めるため「親子共学と生涯学習」に取り組む」

酒井一郎理事長からのメッセージ

「子ども大学かわごえ」が正式に発足したのは平成20年12月。わが国初のことでした。

私たち子ども大学かわごえの特徴は、学校や塾のように知識を積み重ねていく教育方針と違って、講師の先生方が自分のさまざまな専門分野のテーマについて話をする1回限りの授業です。1回話を聞いただけで子どもたちの頭にどれだけの記憶が残るのだろうか？

近年文科省は、教師が一方向的に知識を伝達・注入する授業から、学習者が能動的に学修するアクティブラーニングを推奨しています。このアクティブラーニングで大切なことは、学習者が自ら何事かに疑問を持ち課題を発見する“気づき”にあります。

子ども大学では、子どもたちはさまざまな分野の専門家のお話を聞いて自分の知識の地平を広げ、知的好奇心を深め、さまざまな疑問に“気づく”ようになっています。講師の先生方の大半は大学教授ですが、自分の専門のお話をわかりやすく話していただくと同時に、一つでよいから子どもたちに何らかの感動を与えて、学習への関心を持たせるようお願いしています。

子ども大学かわごえでは保護者も子どもたちと一緒に授業に参加していますが、保護者の多くが「子どもが授業を聞いて関心を持っ

に学び合う親子共学への発展は、子ども大学で講義をする者の熱い期待でもあります。

親と子が、さまざまなことを知り学び合う環境が、共に学ぶ家庭の教育として子ども大学から更に発展することを、講師の立場として非常に誇りに思います。

たことについて、自宅でインターネットで調べたり、参考書を読んだりして自分から学習するようになった」「今まで限られたことにしか関心を持たなかった子どもが、テレビのニュースなどを見ると、この間の授業で習ったことだと言って熱心に見ている」という報告をくれています。私たちは子ども大学の授業が子どもたちの“気づき”をひき起こし、自発的学習への行動を起こしつつある現象に勇気づけられています。

講師の先生方には、経験のない子どもたちにやさしく教える工夫をしていただき感謝しています。東京工業大学の池上彰教授は、私たちの客員教授としてご多忙の中を毎年講義に来ていただき大変感謝しています。



徹底解剖！子ども大学かわごえ



大 学レベルの授業

子どもたちの知性や知的好奇心は10歳前後から急速に発達します。この年齢に達した子どもたちは、ひんぱんに「なぜ？」という質問をします。「なぜ人間は死ぬの？」「なぜ人間は戦争をするの？」など、子どもの素朴な質問には、人生や自然や社会現象の根源的な疑問を突くものが少なくありません。

この大切な時期に、できるだけ早く、考える習慣を身につけるための教育、詰め込み式

の覚える教育ではなく“考える”教育をほどこす——。だから「大学」なのです。

子どもたちの知的好奇心に応えて、大学教授が自分の豊富な専門知識を駆使し、大学レベルの内容を子どもにも分かりやすく説明します。さらに、大学の教室で授業を受けるという環境も子どもの感性に刺激を与え、子どもたちは一生懸命教授の話を受取りようとしています。そうして学ぶ楽しさを体験するのです。

子ども大学かわごえは、みんなで子どもを育てるしくみです。

子ども大学かわごえの特長

- ◆ 未来志向型の“考える”教育
- ◆ 日本初の子ども大学
- ◆ 川越市民がつくった「市民立」大学
- ◆ 教育の③本柱

はてな学

纯粹理論的な学習≒学校教育
…理論学習の正規授業・講義

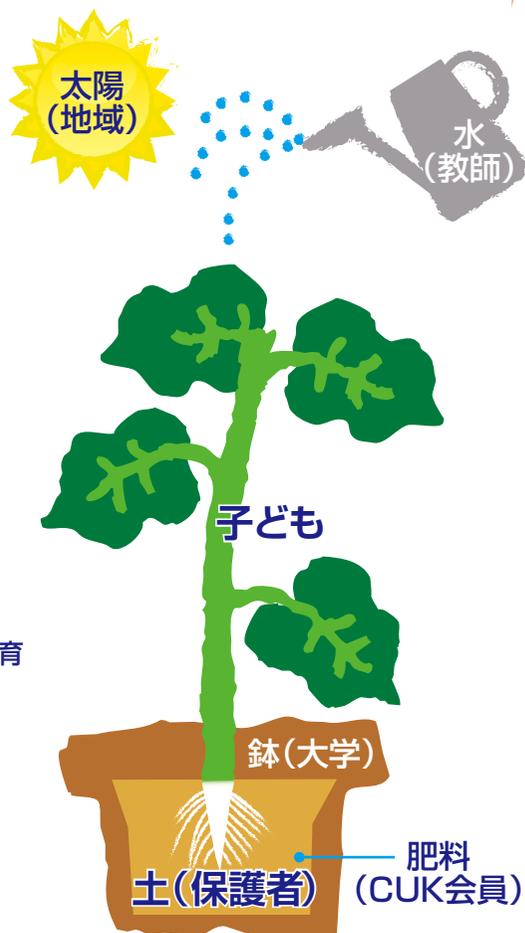
生き方学

将来の社会人を目指すキャリア教育≒社会教育
…ものづくり教室、ミニかわごえ

ふるさと学

郷土や家庭のあり方の研究≒家庭教育
…親子共学、保護者の生涯学習

新たな教育目標



活動の中心は授業です。授業には「正規授業」と「特別授業」があります。

正規授業の中心は“3本柱”の中の「はてな学」で、月1回の土曜の午後2時から4時までの間、50分授業2コマを実施しています（詳細は10ページへ）。

体 験学習も充実

180人もの子どもたちに一斉に授業を行う正規授業を補完する意味で、特別授業として、50人程度のワークショップやフィールドワークを実施しています。これらは「生き方学」「ふるさと学」にあたります。体験型の「ものづくり教室」「農業体験学習」では、高校生が先生となって小学生に実地で指導、世代間の交流にもつながっています。学園祭として発展してきた「ミニかわごえ」は、平成25年から、川越市民や企業、商店、学校とが協働で開催する川越市の子ども祭りに発展しています。

学 びが親子の絆を深める「親子共学」

講義の中でほとんどの講師は、「自分の子ども時代はこうだった」「みなさんも夢を持ちましょう」「疑問があったらすぐ調べて考えましょう」「もっと遊びなさい」「友だちをつくりなさい」「本を読みなさい」と語りかけています。授業の本筋とは直接関連がなくても、生き方、育て方などを講師が講義の中にもうまくりばめて話しているのです。

子ども大学かわごえは子どもを対象として授業を行っていますが、小学校ではなく、大学、です。授業のテーマも大学レベル。保護者も関心を持って熱心に聴講しています。

「親にも聞いてほしい、いいお話しがしばしば聞かれます。講義で学んだ共通の課題を、帰宅後、子どもと同じ目線に立って話し合えるのは楽しいでしょう。きっと親子の絆を深

「子ども大学かわごえ」に寄せて 川越市教育委員会 伊藤明教育長

「子ども大学かわごえ」が平成20年12月に設立されて以来、毎年多くの市内小学生が子ども大学に入学しお世話になっています。またこの間、本市教育委員会や学校において、子ども大学と連携した取組により、大きな成果を上げています。

子どもの教育が問われ続けているいま、学校でも家庭でもない新しい学びの場としての日本初の子ども大学、「はてな学」「生き方学」「ふるさと学」を基本カリキュラムとして、現役の大学教授や各界の知識人が教壇に立ち、子どもたちが成長していくための本当の学びを創り出している「子ども大学かわごえ」の今後の発展を大いに期待しています。

めてくれると思います。日産自動車のカルロス・ゴーン家の家訓の中に、“家庭にとって一番大切なのは、団らんと会話である”“平日は家でテレビを見せない”“欠点や弱点を指摘するときは、いい側面をほめる”“人生にとって大切なのは基本的なしつけである”とあります。家庭教育がいかに重要か、グローバルに活躍する人物の言葉として意味深いと思います」と酒井理事長。

子 ども大学の広がりや普及活動

子ども大学かわごえは毎年4月に学生の募集を行っています。毎回定員180人を超える応募があり、子どもたちに人気です。この子ども大学かわごえをモデルとして、現在埼玉県内各地域には約50校の子ども大学が設立されました。

埼玉県で突出して多くの子ども大学が開校したのは、埼玉県知事の上田清司氏が子ども大学かわごえに興味を抱き、県内に同じような子ども大学を設立することを決断したとい

ういきさつがあります。

ドイツでは100校近い子ども大学が活躍しているという事情を考えると、日本でももっと子ども大学が誕生してもよいのではと、酒井理事長ら事務局サイドでは機会があるごとに子ども大学設立を呼びかけています。その甲斐あって埼玉県外で「子ども大学ぐんま」「子ども大学かまくら」「子ども大学よこはま」が、子

ども大学かわごえの支援で活動を始めました。県外では10校以上に広がっています。

「今後は、冊子発行等による宣伝・普及活動、講演等を通じた積極的広報活動を行い、さらなる普及と教育改革に努めます」と酒井理事長は熱く語ります。

NPO経営の足元を固める

一方で、子ども大学かわごえでは組織としての足元を固めることも計画しています。

平成20年の発足時は、日々発生する新しい事態に、十人前後のスタッフが互いにやりくりしながら対応していました。次第に事業の規模や種類が拡大、多様化していき、現在のような包括的な活動をしていくためには、保護者や地域の方々の協力を必要としています。また、子ども大学かわごえは授業料だけで

書籍紹介
『子どものための大学 日本初の子ども大学』
 NPO法人子ども大学かわごえ
 (代表 遠藤克弥) 編
 2014年 勉誠出版発行
 定価 2,000円 (税別)

設立や理念、活動の様子等を紹介

法人概要

設立 2008年12月22日
 経営主体 NPO法人 子ども大学かわごえ
 所在地 〒350-1109 埼玉県川越市霞ヶ関北3-12-6 霞ヶ関北自治会館内「子ども大学かわごえ」
 TEL 080-2053-2991(事務局直通) FAX 049-233-1640
 ホームページ www.cuk.or.jp/ Email info@cuk.or.jp

定員 180名
 役員 理事長 酒井一郎 (早稲田大学特別研究員)
 学長 遠藤克弥 (東京国際大学副学長)
 理事 望月 修 (東洋大学工学部教授)
 理事 矢倉泰久 (教育ジャーナリスト)
 理事 桑原恒久 (蓮馨寺住職)
 理事 小谷野和博 (川越商工会議所副会頭)

会員数 68名 (役員含む)
 教授陣 東京国際大学、東洋大学、尚美学園大学の教員および他大学教員や実務家
 後援 埼玉県 川越市 川越市教育委員会
 鶴ヶ島市教育委員会 川島町教育委員会 川越商工会議所

子ども大学かわごえ組織図

```

  総会
  |
  理事会
  |
  教務委員会 事務局
  
```



運営されているのではなく、企業や個人からの寄付金、民間助成団体の助成金、賛助会員の会費などの経済的援助と、会員や講師の先生方の無償ボランティア活動、大学の厚意による教室無料貸出などのおかげで、充実した事業が成り立っています。

「しかし、ここで助成金経営からの脱却をはからなくては」と酒井理事長。「そのためにもこれからは、独自の事業や寄付のバランスを増やすなどしていきたい。保護者の方々にも事業に関わって、普段できない経験をし

ていただき、親子で子ども大学を楽しんでいただきたいのです」。

グローバル時代の自立した担い手を育てるために、日本は、創造と思考中心の先進国型教育へ転換する教育改革が必要です。その一つの方法として、ドイツで成果を上げている「子ども大学」に着目し、日本で先陣を切ってスタートした子ども大学かわごえ。今、教育の質をさらに向上させ、さらなるステップアップを目指す時機を迎えています。

未来をつくる学びの場・子ども大学

ご協力をお願いします

伸びゆく子どもたちをはぐくむためには、学校教育はもちろんのこと、ご家庭の協力が大切です。そして、地域社会の協力も重要です。温かい目で、子どもたちを見守ってください。

はてな学
 グローバル時代の担い手

生き方学
 自立した人物

ふるさと学
 世代間コミュニケーション

地域

子どもたちは人との交流によって、将来の目的を定め、国際社会で活躍する自立した人物になっていくことでしょう。



子ども大学かわごえ 8年間の実績

子ども大学かわごえの活動の中心は、正規授業と特別授業。この8年間に実施された授業を一挙公開します。面白そうなタイトルが並んでいます。多彩な講師陣の顔ぶれにもご注目を！



正規授業



特別授業 (ミニかわごえ)

毎回、正規授業の授業をA4サイズ4ページにわたって丁寧に記録しています。第8期までで70号を数えます。



CUKだより (毎月発行)

正規授業それぞれの講義録と学生からの感想のほか、特別授業の様子、活動などを約180ページにまとめた年報。毎年積み重ねてきたこの冊子を手に取ると、スタッフがいかにか心をこめて子ども大学かわごえを支えているかが分かります。



知的おどろき 楽しい学び 子ども大学かわごえ (毎年発行)

授業紹介 ※肩書・役職等は当時のものです

正規授業の教室は、主に東京国際大学、尚美学園大学、東洋大学で、特別授業は、さまざまな会場で行っています。

第1期 2008 (平成20) 年度

◆正規授業

- 「なぜ飛行機は空を飛ぶことができるのか？」
東洋大学 工学部 望月修教授
- 「なぜホテルとさかなは面白いのか？」
東洋大学 工学部 福井吉孝教授
- 「なぜいのちを奪ってはいけないのか？」
尚美学園大学 総合政策学部 五十子敬子教授
- 「なぜ多数決で決めるのか？」
尚美学園大学 総合政策学部 真下英二准教授
- 「なぜ電車の座席はすみからうまるのか？」
東京国際大学 人間社会学部 角山剛教授
- 「どうしたら10分間でギリシャ神殿を描くことができるか？」
東京国際大学 人間社会学部 大築勇喜副教授

第2期 2009 (平成21) 年度

◆正規授業

- 「お金のヒミツ」&「世界地図はひとつではない」
子ども大学かわごえ 池上彰客員教授
- 「おもしろい科学ーじゃがいもとさつまいもー」
女子栄養大学 根岸由紀子准教授
- 「なぜコミュニケーションは大切か？」
東京国際大学客員教授 & 俳優 竹本孝之氏
- 「喜多院と川越」
喜多院 塩入秀知住職
- 「川越氷川祭り (川越まつり) と川越」
川越氷川神社 山田禎久宮司
- 「なぜハチの巣は六角形か？」
東洋大学理工学部 吉野隆准教授

「異文化コミュニケーションを楽しもう！」

桜美林大学 馬越恵美子教授

◆特別授業

- 生涯学習フェスティバルまなびピア参加
「子ども大学かわごえ教育研究発表会」
学園祭 こどもがつくるまち「ミニかわごえ」(蓮馨寺)

第3期 2010 (平成22) 年度

◆正規授業

- 「やってみよう！きみもクリエイターだ」
東洋大学総合情報学部 石原次郎教授
- 「オリンピック聖火ランナーのヒミツ？」
尚美学園大学総合政策学部 江頭満正准教授
- 「お金はどこから来てどこへ行くの？」
早稲田大学産業経営研究所 酒井一郎特別研究員
- 「なぜ税金を納めなければならないの？」
飯島経営グループ 飯島賢二代表理事
- 「地球環境カードゲーム My Earth で学ぶ生物多様性」
富士通株式会社 畠山義彦氏
- 「そばにある国際化：フランスの弁当箱と忍者ナルト」
早稲田大学大学院商学研究科 池上重輔准教授
- 「なるほど！童謡～日本の文化財“童謡”の魅力を再発見～」
子ども大学かわごえ たいらいさお客員教授(元うたのおにいさん)
- 「川越の観光について」
小江戸川越観光協会会長 糸原恒久蓮馨寺住職
- 「なぜ歯は生えかわるか？」
科学映像館 久米川正好氏
- 「テレビの見方を考える」「民主主義国ってどんな国？」
子ども大学かわごえ (ジャーナリスト) 池上彰客員教授
- ◆特別授業
清水建設技術研究所(清水充理事)&日本科学未来館見学
ワークショップ「正多面体を学ぼう」
東洋大学理工学部 吉野隆准教授

高校生が先生の「ものづくり教室」

川越工業高校との共同事業

(学園祭「ミニかわごえ」は東日本大震災が前日に起こり中止)

第4期 2011 (平成23) 年度

◆正規授業

- 『「はやぶさ」と子どもたち」
「子ども・宇宙・未来の会」会長
「宇宙教育の父」的川泰宣 博士
- 「科学映画と親睦の会」
子ども大学かわごえ 松本豊事務局長
- 「世界にはなぜ豊かな国と貧しい国があるのだろうか？」
国際開発センター 三井久明 主任研究員
- 「なぜ薬を飲んだり注射をするのか？」
東洋大学 理工学部 加藤和則教授
- 「原子力発電について考える」
元 原子力研究開発機構 池田要 特別研究員
- 「君は今日からオンリーワン小学生
ーいい学校に入るより、夢を現実する人になれー」
川越胃腸病院 望月智行病院長
- 『「平和」って何だろう？～ノーベル平和賞受賞者たちのしごと～』
神戸外語大学 永井浩 教授
- 「お金が“商品”になった！」「世界地図から世界を見る」
子ども大学かわごえ 池上彰客員教授

◆特別授業

- 高校生が先生の「ものづくり教室」
川越工業高校との共同事業
- 「お金の学習」
造幣局 東京支局 (池袋) 訪問と印刷博物館見学
- 「パソコンを分解して学ぶ私たちの3R」
富士通株式会社環境事業部 畠山義彦氏
- タッチラグビー体験
ジャパンタッチラグビー協会 口元周策理事長
- 学園祭 こどもがつくるまち「ミニかわごえ」(蓮馨寺)

第5期 2012 (平成24) 年度

◆正規授業

- 「ピーターパンの先祖はだれか？～ギリシャ神話の楽しみ方～」
尚美学園大学音楽表現学科の先生たち
- 「東京スカイツリーのひみつ」
東武タワーススカイツリー株式会社 吉野誠一 広報宣伝部長
- 「なぜチンパンジーは石器を作れないのか」
尚美学園大学 櫻井準也教授 三井久明 主任研究員
- 「夢をかたちに～スーパーコンピュータの話～」
株式会社富士通研究所 安部文隆 工学博士
- 「英語の楽しみ！学ぶ楽しみ～英語の発音とリズム～」
大妻女子大学 服部孝彦教授 (言語学博士)
- 「生きる力を測定しよう！」
信州大学 平野吉直教授
- 「世界と上手に付き合おう～TPPってなあに？」
専修大学 今井雅和教授
- 「太平洋戦争とは何だったのか？」
早稲田大学産業経営研究所 酒井一郎特別研究員
- 「日本は豊かか貧しいか？」
東京工業大学 池上彰教授
- ◆特別授業
高校生が先生の「ものづくり教室」
川越工業高校との共同事業
- 「パソコン分解を通して学ぶ環境問題」
富士通株式会社環境事業部 畠山義彦氏
- 「タッチラグビー実習」
ジャパンタッチラグビー協会理事長 口元周策氏
- フィールドワーク「狭山丘陵の秋を楽しもう！」
早稲田大学 大堀聡教授 (早稲田大学所沢キャンパス)
- 「飛行機はなぜ空を飛ぶことができるか？」(蓮馨寺)
東洋大学理工学部 菊池謙次助教 (「かすみ教室」授業)
- 「川越・ふるさとの魅力を楽しんで発信しよう！
歴史や民話を音楽とアートで学ぼう」
子ども大学かわごえ 小林範子客員教授 (「かすみ教室」授業)

遠隔授業・東松山学童保育所に授業を中継
「世界と上手に付き合おう～TPPってなあに？」専修大学 今井雅和教授
学園祭 こどもがつくるまち「ミニかわごえ」(蓮馨寺)

第6期 2013 (平成25) 年度

◆正規授業



特別授業 (エコプロダクツ展)

「アベノミクスとは何だろう？」
ハリウッド大学院大学 江夏健一学長
「地図から学ぶ」
東京大学大学院 布施孝志准教授
「渡辺真理さんと話そう！」
アナウンサー 渡辺真理先生
「音にいのちをふきこむ音楽の魔法」
～初音ミクと歌う里山のうた～
尚美学園大学 漢那拓也研究員
「怪物・ゾンビ・ロボットと人間はどう違う？」
東京国際大学 渋谷哲也准教授
「21世紀に生きる力を育てる学び方」
～小学生のための認知科学入門～
東京大学大学院 三宅なほみ教授
「川越市から宇宙に飛び出せ！～体験ロケット教室～」
東洋大学 藤松信義准教授
「日本の宇宙科学の今とこれから」
JAXA 宇宙科学研究所 阪本成一教授
「ことばの魅力」
～ことばの楽しさ・不思議さ・怖さを実感しよう～
明海大学 大津由紀雄教授
「やさしい経済学」
東京工業大学 池上彰教授

◆特別授業

高校生が先生の「ものづくり教室」
川越工業高校との共同事業
「パソコンを分解して学ぶ環境問題」
富士通株式会社環境事業部 島山義彦氏
動物とふれあう自然教室 (こども動物自然公園)
「エコプロダクツ2013」見学 (東京ビッグサイト)
親子で学ぶ古典芸能「狂言教室」 (川越八幡宮)
川越市長とタウンミーティング (川越市役所)
ミニかわごえ2013こどものまち (蓮馨寺)
※この年から川越市のまつりに移行

第7期 2014 (平成26) 年度

◆正規授業

「音楽の不思議と合唱の楽しみ」
尚美学園大学 坂田晃一教授
「変化し続ける飛行機～ジャンボから787、そして未来へ～」
ボーイングジャパン 小林美和ディレクター

「スポーツ心理学～こころとからだの不思議な関係～」
東京未来大学 川田裕次郎専任講師
「未来の自分に会いに行こう」
東洋大学 小島貴子准教授
「なぜ、戦争が起こるのか？」
東京工業大学 池上彰教授



特別授業 (農業体験)

「万葉の心 (ハヤシ海運株式会社協賛)」
子ども大学かわごえ 酒井一郎氏・小林範子氏
「国の会計とは～会計検査院の仕事～」
会計検査院 小林麻理検査官
「インスリンの発見・科学と普及の歴史」
防衛医科大学校 田中祐司教授
「宇宙の不思議を探る～小惑星探査機「はやぶさ」の旅～」
JAXA 宇宙科学研究所 上杉邦憲名誉教授

第8期 2015 (平成27) 年度

◆正規授業

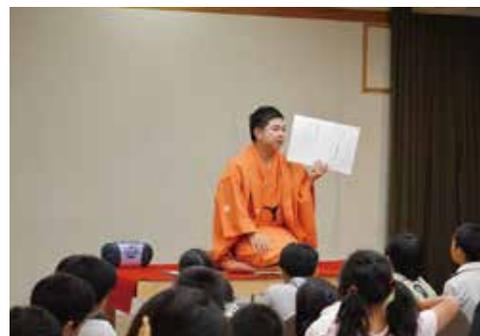
「世界の学校と子どもたち」
子ども大学かわごえ 遠藤克弥学長
「働くということ」
東京大学 玄田有史教授
「農地の中に広がる宇宙」
尚美学園大学 横山和成教授
「なぜ森は人間にとって必要なのか？」
東洋大学 小瀬博之教授
「憲法と私たちの暮らし」
東京工業大学 池上彰教授
「2020東京オリパラの主役は君だ！」
東京国際大学 木原慎介 専任講師
「小惑星探査機はやぶさ2」
JAXA はやぶさ2 吉川真ミッションマネージャ

◆特別授業

高校生が先生の「ものづくり教室」
川越工業高校との共同事業

農業体験授業

川越総合高校 田中忠明農場長
パソコンを分解して学ぶ環境教育 (6年生)
富士通株式会社 島山義彦氏
落語体験学習 (5年生)
落語家古今亭志ん八氏



特別授業 (落語体験)

少林寺拳法実技 (4年生)

金剛禅総本山少林寺川越道院 矢島隆禅道院長
「エコプロダクツ2015」見学 (東京ビッグサイト)
ミニかわごえ2015こどものまち (蓮馨寺)
◆保護者対象 (親子学セミナー)
「21世紀における宗教の意味」 (蓮馨寺講堂)
蓮馨寺 糸原恒久住職

クラブ活動



新聞部

新聞部には十数人の部員が所属。各授業の内容や受講者の取材を行い、「子ども大学学生新聞」を毎月発行しています。子どもたちが教授陣の講義を深く吸収しようとしていることが感じられる内容です。スタッフの一人が元新聞社論説委員であったことから、同氏が世話人となり、子どもたちを指導しながら発行しています。

子ども大学ジュニア合唱団

2013年9月、尚美学園大学の協力のもと誕生し、現在の団員数は31人。月1～2回の練習をあげばのホールで続けています。子ども大学入学式、クリスマス会をはじめ、発表会やミニかわごえなども参加。2014年「万葉集の心」の授業では、音楽劇 (尚美学園大学オーデトリウム) を披露しました。

子ども大学かわごえ
校歌

作詞 小室志をり

なぜがわかる 教室で
はてながわかる 教室で
知らない世界が 見えてくる
学ぶよろこび 胸おどる
あふれる感性 はじける知性
子ども大学かわごえ

生き方学ぶ 教室で
希望にもえる 教室で
わたしの未来が 地球をかける
憧れいっぱい はばたこう
あふれる感性 はじける知性
子ども大学かわごえ

ふるさと学ぶ 教室で
時の鐘なる 教室で
小江戸の文化 蔵の街
生きるよろこび 明日へつなごう
あふれる感性 はじける知性
子ども大学かわごえ

あふれる感性 はじける知性
子ども大学かわごえ



卒業生から

小学生のうちからこういった体験をすることは視野を大きく広げる素晴らしいことだと思う。

深見 美空さん(小6)

一番印象に残っている授業は「スポーツ心理学」です。得意でなかった前屈の記録を伸ばすことができ、うれしかったです。

一番印象に残っている活動は、新聞部として授業についての記事を書いたり、ミニかわごえで川越市長の取材をさせていただいたことです。編集長や先輩記者の友達に助けてもらいながら、しっかりまとまった原稿が完成すると、思わず笑ってしまうくらいうれしく、達成感を感じることができました。

堤 彩夏さん(中2)

もともと星が好きだったので、授業やJAXA見学などを通して、ますます宇宙に興味がわきました。池上(彰)先生の授業を受けてニュースを見る回数が増えました。私がいろいろなことに興味を持てるようになったのは、子ども大学の影響だと思えます。

今は子ども大学かわごえのジュニアスタッフ、シニア記者として活動していますが、先生方や大人の方との交流の機会も増え、卒業した今でも学ぶことがたくさんあります。

皆さんには興味を持って意欲的に授業に参加してほしいと思います。子ども大学で得た知識は小学校だけでなく、中学校、さらには大人になっても通用します。いろいろなことが学べる貴重な体験なので、1回1回の授業を大切に、そして楽しんで受けてください。

星名 長坂くん(中2)

一番最初に受けた的川(泰宣)先生の「はやぶさ」の授業から、たくさんの思い出があります。でも一番の思い出はなんてって「新聞部」。子ども大学での3年間は、これなしでは語れないくらいです。池上(彰)先生に取材をしたり、アンケートを採って子ども大学の活動に貢献(?)したり、いろいろな体験をしました。2代目編集長も経験し、6年生の1年間、すごく楽しかったです。

卒業生・保護者からのメッセージ

子ども大学かわごえに多くの方々がメッセージを寄せてくださいました。

(学年は2016年3月時点)

吉原 弥桜さん(高2)

授業の後に酒井さん(理事長)とお話したこと、クリスマス会でプレゼント交換をしたこと、池上(彰)先生の授業で地図を広げるお手伝いなどをさせていただいたこと、受付をさせていただいたこと、プリントを配ったこと等々、ジュニアスタッフとしての記憶がどんどん思い出されます。子ども大学かわごえをいつも応援しています!

大角 美森さん(高2)

スタッフとして裏から支えたり、的川(泰宣)先生の授業では司会進行をやらせていただいたり…。どれも初めての経験でとてもためになりました。ミニかわごえではどうしたら楽しんでもらえるか、喜んでもらえるかを自分たちで考えて計画し、運営する楽しさを知りました。自分で見て、聞いて、体験する大切さを多くの人に伝えたいと思います。

岡地 剛史さん(高3)

さまざまな分野の授業を受けることができて知的好奇心が満たされ、ジュニアスタッフとして裏からサポートする立場を学ぶこともできました。私は子ども大学かわごえに入学したことがきっかけで、スーパーサイエンスハイスクール指定校の川越高校に行って、さらに知的好奇心を追求したいという動機につながりました。小学生のうちからこういった体験をすることは、視野を大きく広げる素晴らしいことだと感じています。

竹ノ谷 龍さん(大学生)

一番の思い出は入学式です。角帽とマントを着せてもらって参加させていただき、誇らしい気分になりました。一番興味を覚えたのは「パルテノン神殿」の授業でした。そこから考古学への興味を持った私は、中学の卒業時に「遺跡の声を聴く」という原稿用紙50枚の論文を書き上げ、中学校の卒業論文グランプリの表彰をいただきました。そして今、さらに夢へ向かい、歴史の勉強を続けるために大学で日々精進しています。まだまだ先は長いですが、子ども大学かわごえで学んだ「興味への探求」を続けていきたいと思っています。

保護者から

子どもたちの好奇心でキラキラした瞳がこれからも一層輝き続けることを願う。

もたちのために、皆ボランティアでお引き受けくださった方たちばかりです。そして、その活動をボランティアスタッフが支えています。だからこそ、お金を掛けて勉強するのは違う価値が、この子ども大学にはあると思います。

竹ノ谷 史恵さん

「子ども大学」という名前を聞いたのは、酒井理事長ご夫妻と初めてお会いした時でした。ご夫妻は「子どもに大学レベルの授業を受けさせて知的好奇心を刺激したい」という想いを熱く語ってくださいました。当時息子が小学6年生だったのもあり、なんて素晴らしい構想だろうとすぐに私も入会させていただきました。それからシンポジウムを開き、学生を募集し、校旗や校歌を作り、学生の角帽を手作りし、市民ボランティアの力で開校にこぎつけました。あの頃を思い出すと、今はすっかり大きく育った「子ども大学かわごえ」や、全国に広がった「子ども大学」を感慨深く眺めています。

1期生だった我が子は1年間しか在学できず、残念に思いながらの卒業となりました。それでもあの時学んだことや、子ども心に培った知的好奇心を持ち続け、将来の夢に向かって大きく羽ばたいてくれたらと思います。

子ども大学かわごえで学ぶ子どもたちの、好奇心でキラキラした瞳が、これからも一層輝き続けることを願っております。

飯野 美加さん

子どもを送迎するだけでなく、親も一緒に授業を受けることをお勧めします。大人も楽しめる授業ですし、授業の後に子どもとの話が弾みます。東京大学の玄田(有史)先生の授業「働くということ」を受けた後、家でも話題になりました。息子は将来の仕事に対する考え方にについて楽しそうに話していました。

また新聞部の活動で、積極的にインタビューをしたり、原稿をまとめたりということを楽しんでいるようです。学校生活では見られない姿です。

森 佳子さん

毎回、親子で授業に参加していたので、家に帰るとその日の授業の内容について話をしていました。初年度のオリンピックの聖火ランナーの話は興味深く、その後のオリンピックを観る目が変わりました。今も「東京オリンピックでは最後の聖火ランナーは誰になるのか?」という話をしています。

子どもの学年や興味の違いにより、同じ授業を聴いても理解の仕方が違うと思います。確かに、小学生には少し難しいと感じる授業もあります。授業を聴いたからといってすぐにお子さんに変化が現れないかもしれません。しかし、この子ども大学での経験が無駄になることはないと思います。今までに講義くださった先生方は子ども

「親子で学ぶ 子ども大学」

2016年3月15日 発行

定価 200円(税込)

発行者 NPO法人子ども大学かわごえ
理事長 酒井一郎

発行所 LLPじもとメディア
〒350-2201
埼玉県鶴ヶ島市富士見1-1-8
アーバンヒルズ405号
TEL 049-257-8739

本書に掲載の内容は、2016年3月時点のものです。

本書の一部または全部について著作権上、NPO法人子ども大学かわごえおよび著作権者の承認を得ずに無断で複製・複製することは禁じられています。

本書に関する質問は電話では受け付けておりません。内容についてのご質問は、切手を貼り付けた返信用封筒を同封の上、当法人までご送付ください。

本書のご感想、ご意見、ご指摘はメールにて受け付けております。



募集について

毎年4月に小学4年生から6年生、180名を募集しています。授業は6月からです。
詳しくはホームページをご覧ください。

定価 200円（税込）